



フォローアップ塾研究成果報告

「エコ名人を探せ！」塾



塾長 佐藤 恵

■ 塾長コメント ■

三年間の活動で色々な「エコ名人」の方々
と知り合うにつれ、この方とこの方にこのテ
ーマでお話していただきたいとか、この方に
この団体と関わってもらいたいなどと思う場
面が増え、塾としてフォーラムを企画する
というのが目標の一つとなりました。

また、今年度からフォローアップ塾となり、
運営資金を自分達で作ridすことも真剣に考
えなければならず、正直大変でしたが、塾の
方向性や意義などを考え直すいい機会にな
ったように感じます。

まだまだ反省すべき点は多々ありますが、
それを踏まえ、今後もより多くの方々に楽し
く環境活動に取り組んでいただけるようなき
っかけづくりができればと思います。

■ 塾の目的 ■

環境問題抜きには、これからの社会につい
て考えることは不可能になってきている状況
の中、市民が関心をもってもらえるような切
り口で、地元長崎での実践例を紹介したり、
気軽に環境活動にとりくめるようなきかけ
づくりをすることを目的としています。

■ 塾の研究・活動内容 ■

今年度の塾としての一番のイベントは、9
月4日に長崎市図書館多目的ホールに手開催
した「環境に優しい暮らしを楽しもう」と題
したフォーラムです。



二部構成で、一部は熊本市で「エココミュ
ーン山の神」という「全戸畑付きエコ賃貸集
合住宅」を企画した松本さんとオーナーの田
上さんをお迎えして、その思いや実際に暮ら
してみたの感想、エコ建築として家の構造な
ど、非常に興味深いお話をいただきました。

二部は「長崎でのエコな暮らし」というテ
ーマで四人のパネラーの方々をお迎えしまし
た。

県産材や自然素材にこだわって伝統工法で
家造りをされている大工の池上さん、横尾地
区で自治体ぐるみで生ごみたい肥化、共同農
園での野菜作りに取り組んでおられる岩崎さ
ん、給食の食べ残しをたい肥化し、屋上で野
菜や果物を作ったりと園児が楽しんで取り組
める食育に熱心な星座保育園の高實園長先生、
斜面都市長崎の問題点、将来に向けての有効
利用などのお話をしてくださった長崎大学の
杉山先生、それぞれの話題がとても興味深く、
内容も盛りだくさんだったので、最後の質疑
応答の時間が足らなくなったのが残念でした。

太陽光発電や省エネ技術など現代の知恵を活かしつつ、昔ながらの近所づきあいや自然とのふれあいを大切にした暮らしが、人にも環境にも優しいということが参加者の皆さんにも伝わったと思います。

また、今年度は「ながさきエコネット」にも塾として参加させていただきました。

これは地球温暖化防止に向けて、長崎の環境団体が、情報を共有し、つながりあい、協力しあうことで、より活動を充実させていこうというものです。

「エコ名人を探せ！」塾として、何ができるか考えた時、まずは参加団体の活動を知ることから始めてみようと思い、長崎ネイチャーゲーム協会会長の春海さんの御自宅に塾生共々行ってふたつのネイチャーゲームを体験させていただきました。

私を始め、塾生も全員ネイチャーゲームは初めてだったのですが、いつでもどこでも自然と仲良くなれる良い手段だと体感できました。

これをきっかけに長崎市のネイチャーゲームの会の園田さんが中心となって、ながさきエコネットに登録している三つの団体(ながさきしネイチャーゲームの会・グリーンバード長崎・「エコ名人を探せ!」塾)の共同企画が実現しました。



「森ガール in forest」というもので、今回は女性対象に市民の森で開催しました。素材にこだわったマクロビのお弁当を作って緑の中でいただいた後、ネイチャーゲームで自然に親しみ、山歩きの途中でゴミ拾いをし、絵本や詩の朗読を聞きながらスイーツも楽しむという欲張りな企画です。

地球温暖化という大きな問題を前にすると途方にくれますが、まずはそのことを真摯に受け止める感性が大切で、そのためには自然の素晴らしさやかけがえのなさを実感できる機会もより重要になってくると思います。

今回の企画も小さな一歩ではありますが、「ながさきエコネット」でのつながりがなければ実現しなかった試みです。今後も「楽しさ」をキーワードに色々な団体の方々とアイデアを出し合い、企画やプロジェクトという形で実現していければと思っています。

竹に関しては昨年度に続き、竹炭・竹酢液作りを行っています。

放置竹林問題と合わせて、竹の有用性や魅力を広く知ってもらおう事で、多くの方が身近な自然として楽しく関われる場所になるよう活動を続けるつもりです。

■ 塾活動の成果 ■

今年度の成果はやはり 9 月のフォーラムで、参加者のアンケート結果も好評でした。

でも、なによりの成果は三年間の活動で出会った「エコ名人」の方々とのつながりだと思います。塾としてはこのつながりを活かして、塾生自らも楽しめるような企画や取り組みができていければと思います。